

Titan

＝ 自動バックアップ・機能概要 ＝

2011.08.01

自動バックアップの基本機能

自動バックアップの基本機能

Titanが提供いたします自動バックアップ機能には、個々のファイルを直接指定した自動バックアップ・フォルダ（サブフォルダも対象となります）を指定しての自動バックアップ、及びフォルダを指定したミラーリングバックアップ（サブフォルダも対象となります）の3通りの指定方法があります。

尚、フォルダバックアップまたは、フォルダミラーリングの対象となったファイル内に、ファイル単体にバックアップ指定が行われたファイルが存在した場合は、ファイルバックアップ処理が優先されます。

1. バックアップの対象としてファイルを指定する

Titanマネージャー画面のメインビューに表示されているファイルを直接指定して、バックアップ処理の対象として指定します。

ファイル指定の場合は、その該当ファイルが移動した場合でもバックアップ属性は引き継ぎます。また、ファイルのリネーム（ファイル拡張子の変更を伴う）を行った場合もバックアップ属性は引き継がれます。但し、Titanの管理対象外のファイル拡張子に変更した場合は、バックアップの対象から外れます。その場合、バックアップデータも併せて削除されます。

2. バックアップの対象としてフォルダを指定する

Titanマネージャー画面の「メニュー・オプション/登録ツール(T)」からバックアップの実施を行うフォルダを登録します。

フォルダを指定してバックアップを行う場合、バックアップ対象ファイルとしてファイル拡張子の登録が必要です。フォルダバックアップの基準は、ファイル拡張子を基準としています。

たとえ、バックアップに指定されたフォルダ内に「ファイルが新規作成・ファイルの更新」が発生した場合でも、該当のファイルが未登録のファイル拡張子だった場合、そのファイルのバックアップ処理は実施されません。

3. ミラーリングバックアップの対象としてフォルダを指定する

Titanマネージャー画面の「メニュー・オプション/登録ツール(T)」からバックアップの実施を行うフォルダを登録します。

ミラーリングバックアップの場合、世代管理でのバックアップは行いませんので注意が必要です。

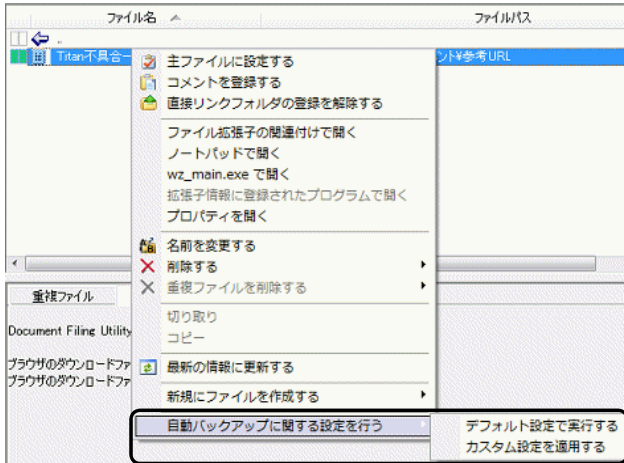
ミラーリング元・ミラーリング先は常に同期が取られ、同一内容のファイルがミラーリング元/先に存在する形になります。

ミラーリング先に指定するフォルダが存在するドライブIDは、Titanの管理外ドライブを指定する事も可能です。

ファイルを指定した自動バックアップ

自動バックアップファイルの登録

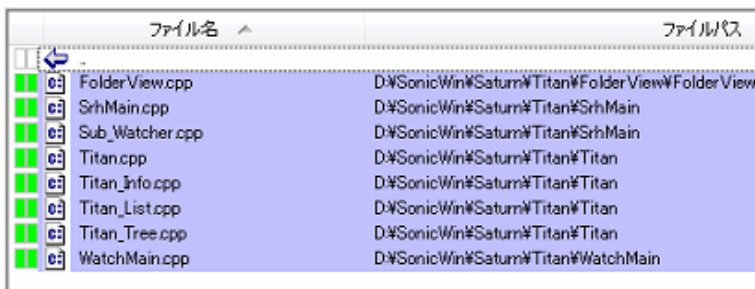
Titanマネージャー画面から対象ファイルを選択します。



← Titanマネージャー画面のメインビューです。

自動バックアップを指定する場合に選択して下さい。
(Alt + F1キーを選択してオプション検索を実行した場合に表示されるオプション検索画面からも、同じ様に指定する事が出来ます。)

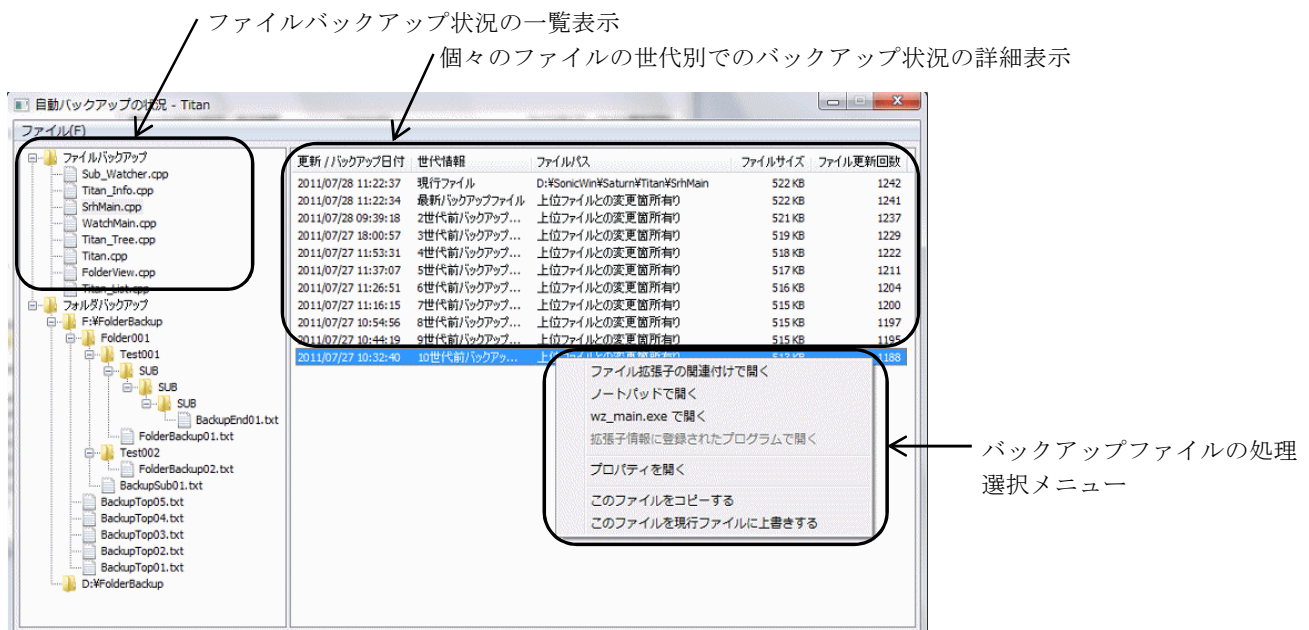
自動バックアップの指定が行われたファイルの確認



← 自動バックアップが指定されたファイルは表示カラーを変えて描画されます。

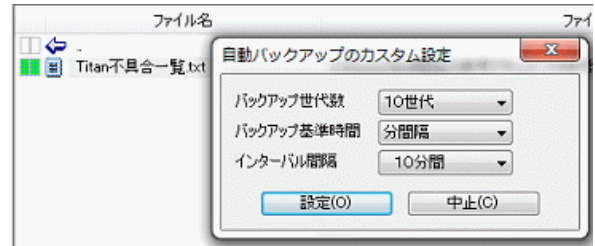
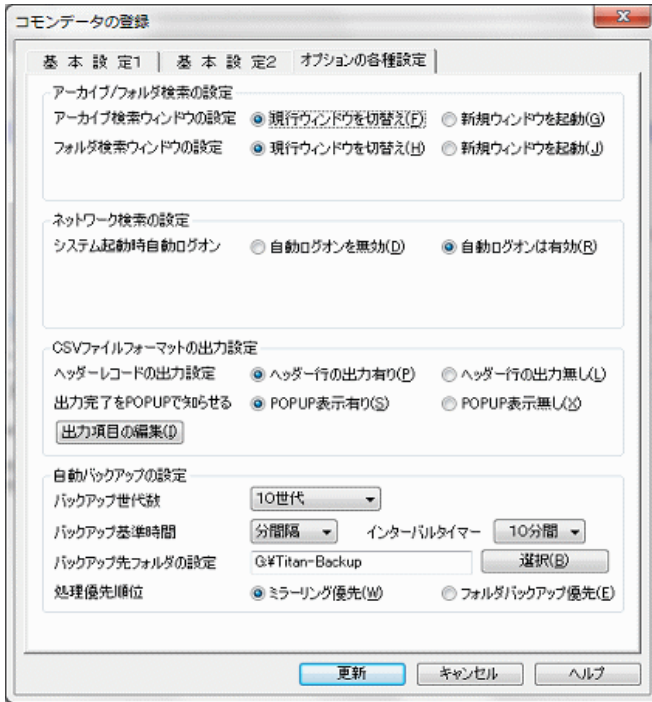
自動バックアップ状況の確認

Alt + F5キーを押し下げて自動バックアップ状況確認画面を起動して下さい。



自動バックアップファイルのバックアップ世代数、及びバックアップ間隔の登録

個々のバックアップファイル別に設定する事も、またデフォルト設定を適用する事も出来ます。



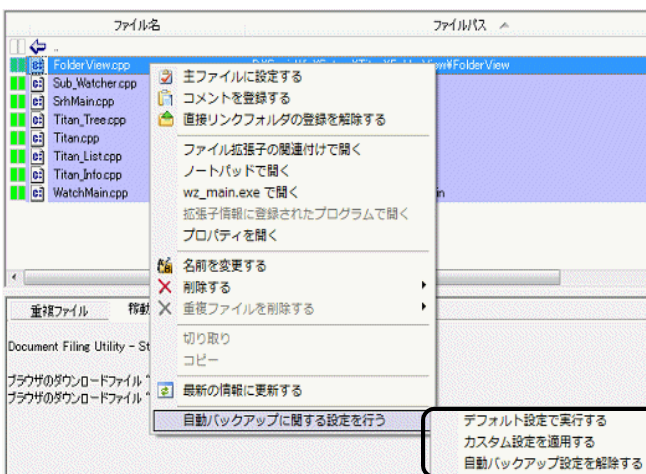
カスタム設定を適用するを選択した場合は、上記の設定画面が表示されますので、バックアップの実行条件を設定して下さい。

デフォルト設定で実行するを選択した場合、上記の内容で自動バックアップ処理が実施されます。

バックアップが実行される条件ですが、以前のバックアップ実施時間から設定されている時間が経過し、且つ、その確認処理時にファイルの内容に変更があった場合のみバックアップ処理を実施します。更新のみで、ファイルの内容に変化がなかった場合、バックアップ処理は行われません。

ですので、バックアップを実施するインターバル時間内にファイルの変更が行われ、バックアップの確認を行うタイミングでは変更が行われなかった場合、バックアップが実施される事は有りません。

自動バックアップファイルの解除



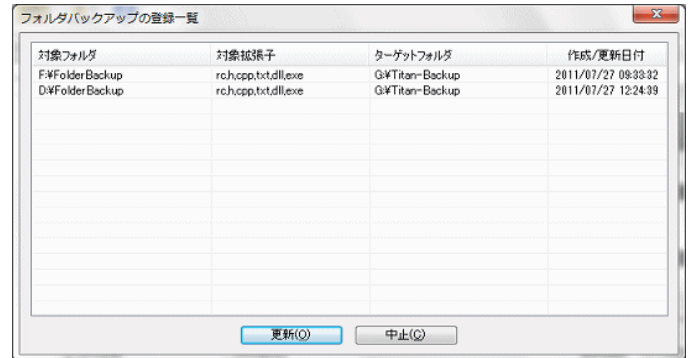
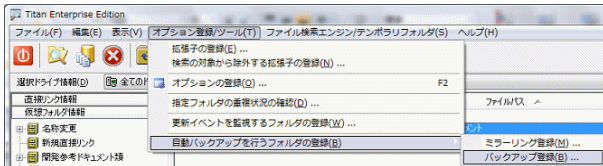
該当ファイルの処理メニューを表示し、「自動バックアップ設定を解除する」を選択して下さい。

フォルダを指定した自動バックアップ

自動バックアップフォルダの登録画面の呼び出し

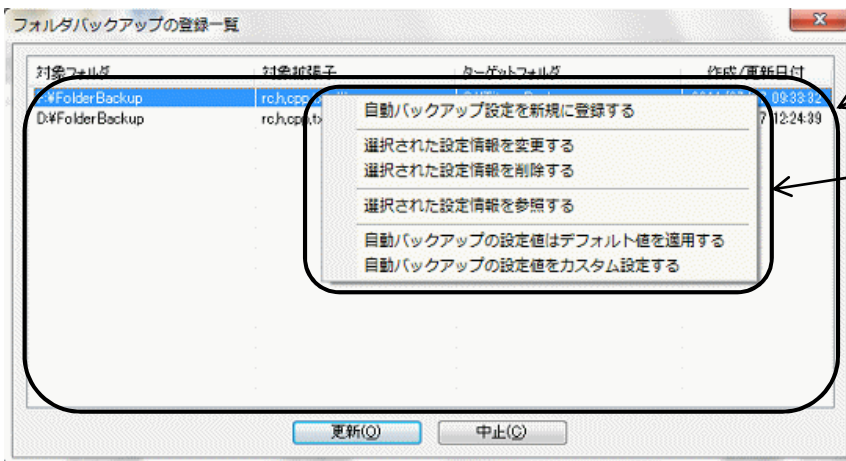
Titanマネージャー画面のメニュー項目を下記の順で辿り、選択画面を起動して下さい。

「オプション登録/ツール」→「自動バックアップを行うフォルダの登録 → バックアップの登録」



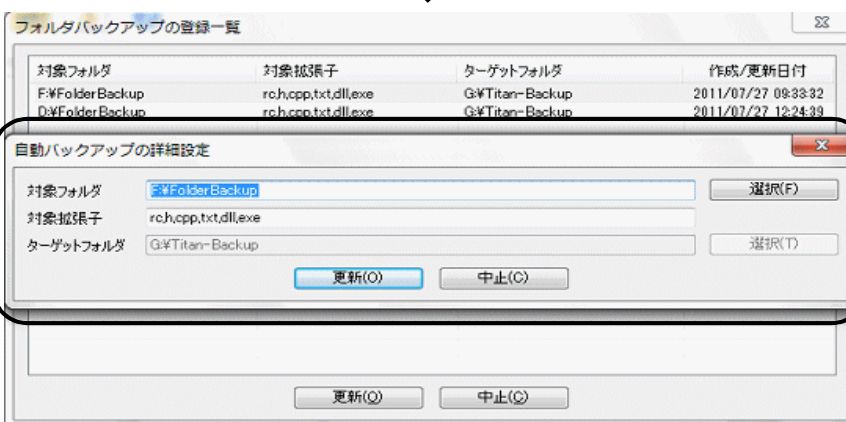
※自動バックアップフォルダの登録はマネージャーのみが行えます。

自動バックアップフォルダの登録方法



ビュー内の任意の位置で、マウス右クリックして下さい。

選択POPUPメニューを表示します。実施する処理を選択して下さい。



詳細設定画面が起動されます。

フォルダ指定によるバックアップの場合は、本登録フォルダに紐付けられたファイル拡張子に基づいてバックアップ処理を実施します。

登録されていない拡張子のファイルは、バックアップ処理は行いません。

サブフォルダの取り扱いについて

バックアップフォルダとして登録したフォルダ内にサブフォルダが存在した場合、該当のサブフォルダもバックアップの対象となります。

自動バックアップフォルダのバックアップ世代数、及びバックアップ間隔の登録

フォルダバックアップの場合はフォルダに対して適用しますので、そのフォルダに属するファイルは、フォルダに適用された設定値に基づきバックアップ処理が実施されます。

個々のファイル別にバックアップ属性を設定する事は出来ません。

実際のバックアップ処理に関しましては、ファイルバックアップの説明をご参照下さい。

自動バックアップフォルダ状況の確認

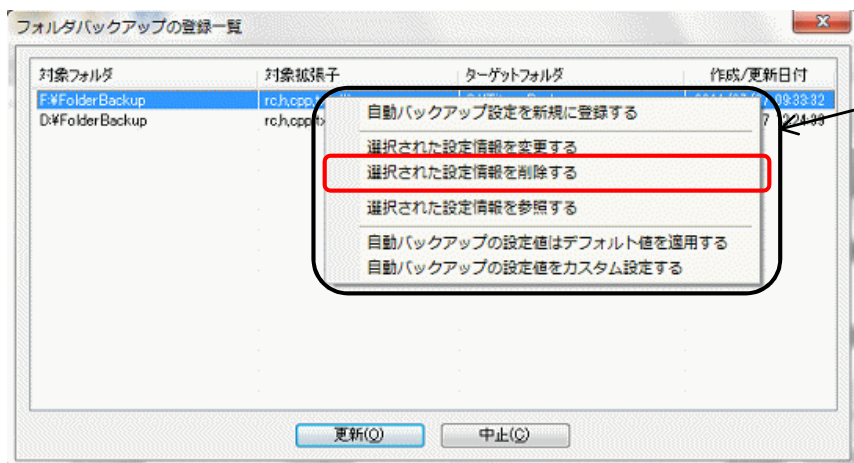
バックアップ状況の確認方法は、ファイルバックアップの説明をご参照下さい。

自動バックアップフォルダの指定に基づきバックアップされたファイルの確認

	ファイル名	ファイルパス
<input type="checkbox"/>	UnInstTrace.txt	D:\1\VirtualTemp\test
<input type="checkbox"/>	InstTrace.txt	D:\1\VirtualTemp\test
<input checked="" type="checkbox"/>	SrhMain1.txt	D:\FolderBackup\Backup01\1\Test001
<input checked="" type="checkbox"/>	rights.txt	D:\GWC_TOOL\samples\1\GMAIL\SRG
<input checked="" type="checkbox"/>	readme.txt	D:\GWC_TOOL\samples\1\SRG\release

← 自動バックアップが指定されたファイルは表示カラーを変えて描画されます。

自動バックアップフォルダの解除



削除する設定データにマウスカーソルを合わせ、右クリックして下さい。表示された処理メニューより、「選択された設定情報を削除する」を選択して下さい。

実際の反映されるのは、「更新ボタン」を押したタイミングです。

ファイル拡張子の変更、フォルダの移動、ファイルの移動

バックアップ対象のフォルダ内に存在するファイルの拡張子を変更した結果、バックアップ対象のファイル拡張子から外れた場合、そのファイルはバックアップの対象から外れます。また、保管先のフォルダからもバックアップ情報は削除されます。

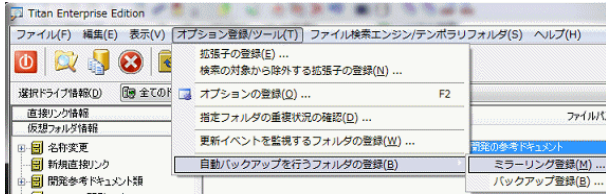
フォルダ/ファイル移動を行った結果、バックアップ対象のフォルダ外に移動となった場合も同じです。バックアップフォルダ内に留まった場合は、移動先の情報に書き換えます。

フォルダを指定した自動ミラーリングバックアップ

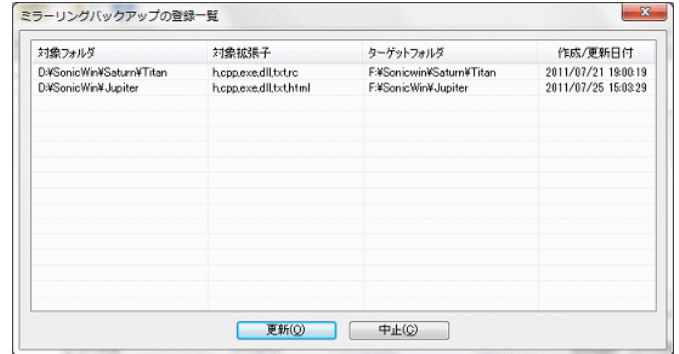
自動ミラーリングバックアップの登録画面の呼び出し

Titanマネージャー画面のメニュー項目を下記の順で辿り、選択画面を起動して下さい。

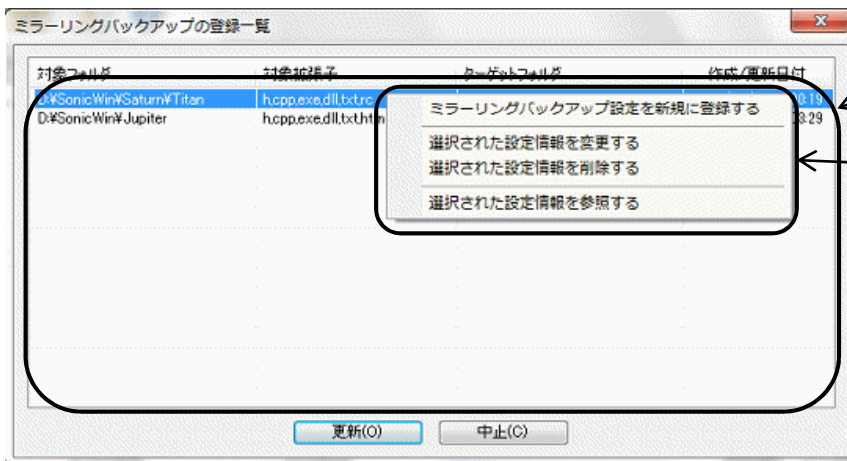
「オプション登録/ツール」 → 「自動バックアップを行うフォルダの登録 → ミラーリングの登録」



※自動ミラーリングバックアップの登録はマネージャーのみが行えます。

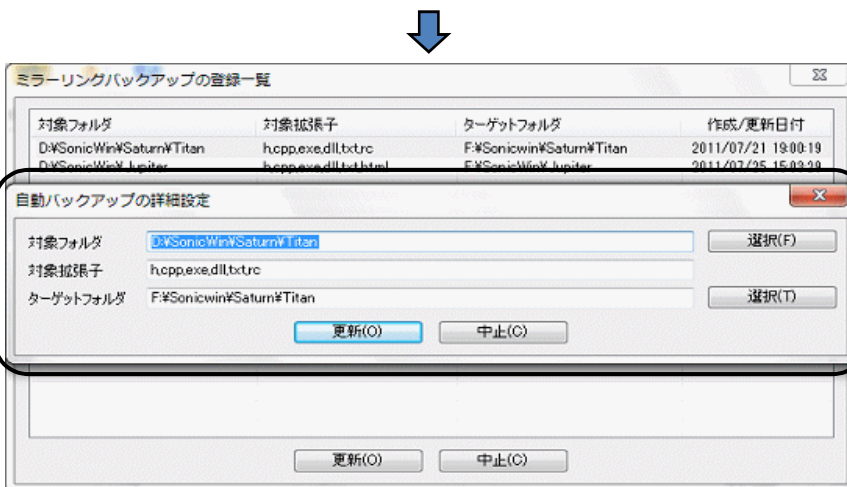


自動ミラーリングバックアップの登録方法



ビュー内の任意の位置で、マウス右クリックして下さい。

選択POPUPメニューを表示します。実施する処理を選択して下さい。



詳細設定画面が起動されます。

ミラーリングバックアップ処理は、本登録フォルダに紐付けられたファイル拡張子に基づきミラーリングバックアップ処理を実施します。

登録されていない拡張子のファイルは、ミラーリングバックアップの対象にはなりません。

サブフォルダの取り扱いについて

ミラーリングバックアップとして登録したフォルダ内のサブフォルダも、ミラーリングバックアップの対象となります。

自動ミラーリングバックアップのバックアップ世代数、及びバックアップ間隔の登録

ミラーリングバックアップですので、ミラーリング元とミラーリング先は常に同期が取られ、最新状態のファイルがミラーリング先にコピーされます。但し、更新日付のみが書き換えられファイルの中身に変更が無い場合、ファイルコピー処理は行われません。
ですので、ミラーリング先に存在するファイルは最新の更新ファイルのみです。

自動ミラーリングバックアップ状況の確認

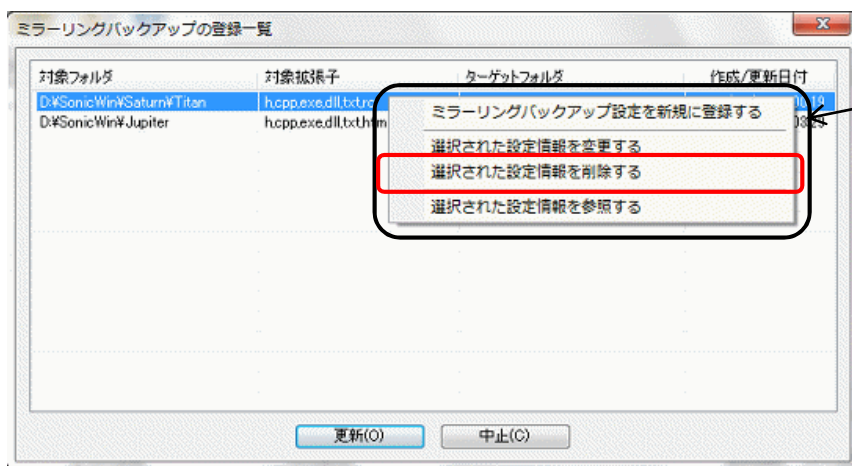
ミラーリングバックアップですので、ミラーリング先の確認ツールは提供しておりません。
エクスプローラ等で確認して下さい。

自動ミラーリングバックアップの指定に基づきバックアップされたファイルの確認

ファイル名	ファイルパス
WIN_FILE.H	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WPGMINC
BASE_INC.H	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WPGMINC
DEF_FILE.H	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WPGMINC
DEF_BASE.H	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WPGMINC
StdAfx.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WSh\Engine
StdAfx.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WSh>Main
SrhMain.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WSh>Main
Resource.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WSh>Main
stdafx.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\Titan
Titan.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\Titan
Resource.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\Titan
StdAfx.h	D:\SonicWin\Saturn\Titan\WatchMain

← 自動ミラーリングバックアップの指定が行われたファイルは、表示カラーを変えて描画されます。

自動ミラーリングバックアップの解除



削除する設定データにマウスカーソルを合わせ、右クリックして下さい。
表示された処理メニューより、「選択された設定情報を削除する」を選択して下さい。

実際の反映されるのは、「更新ボタン」を押したタイミングです。

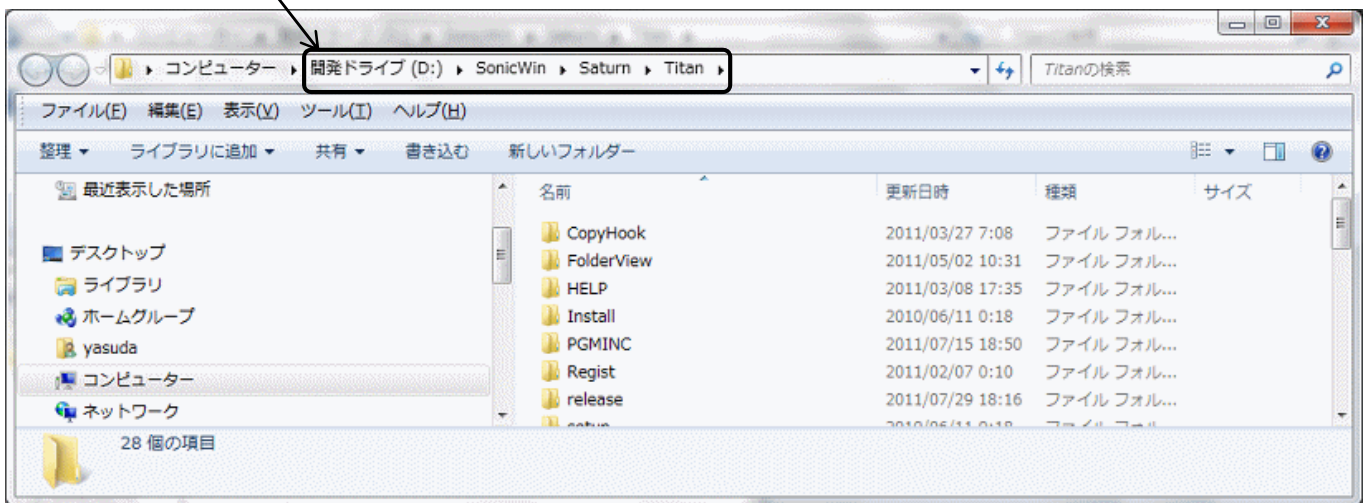
ファイル拡張子の変更、フォルダの移動、ファイルの移動

ミラーリングバックアップ対象のフォルダ内に存在するファイルの拡張子を変更した結果、バックアップ対象のファイル拡張子から外れた場合、そのファイルはミラーリングバックアップの対象から外れます。また、ミラーリング先のフォルダからも該当のファイルは削除されます。

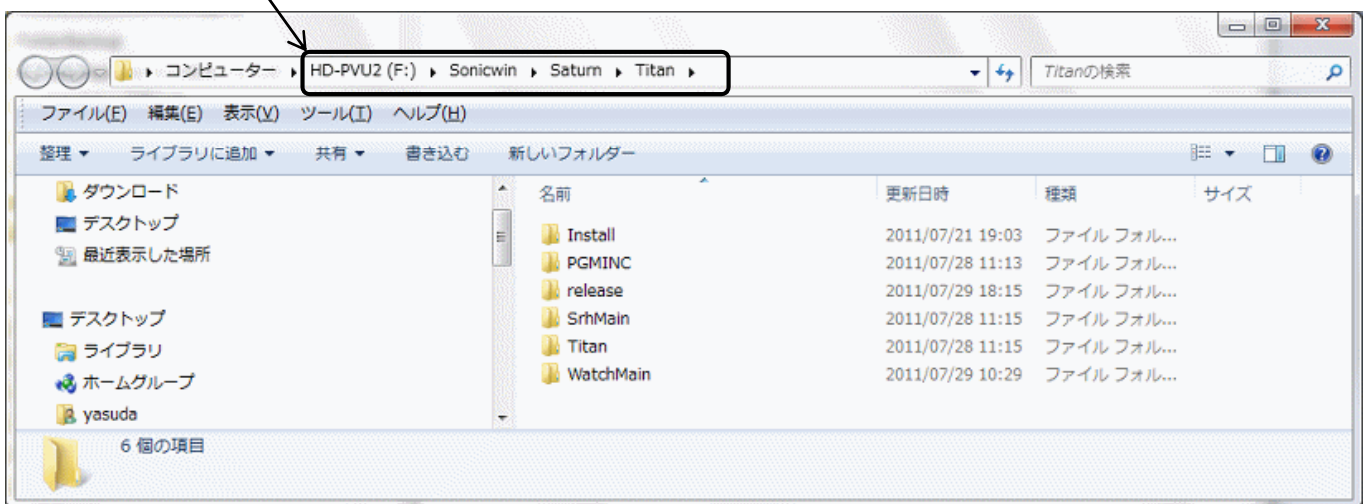
フォルダ/ファイル移動を行った結果、ミラーリング対象のフォルダ外に移動となった場合も同じです。ミラーリングフォルダ内に留まった場合は、移動先の情報に書き換えます。

実際のミラーリングの状況

ミラーリング元として、内臓ドライブの **"D:¥SonicWin¥Saturn¥Titan"** を登録



ミラーリング先に、外付けUSBドライブの **"F:¥SonicWin¥Saturn¥Titan"** を指定



上記の設定に基づき、**"D:¥SonicWin¥Saturn¥Titan¥SrhMain¥SrhMain.cpp"** の更新が行われた場合、更新の対象は、**"SrhMain¥SrhMain.cpp"** を更新対象の情報として記憶し、ミラーリング先に指定された **"F:¥SonicWin¥Saturn¥Titan"** フォルダ内に該当のファイルが存在するか検索されます。検索した結果、**"SrhMain"** フォルダが存在しない場合はフォルダを作成し、ファイルコピーを行います。

自動バックアップにおける注意事項

自動バックアップの重複登録

自動バックアップの設定

バックアップ世代数: 10世代

バックアップ基準時間: 分間隔 インターバルタイマー: 10分間

バックアップ先フォルダの設定: G:\Titan-Backup 選択(B)

処理優先順位: ミラーリング優先(W) フォルダバックアップ優先(E)

更新 キャンセル ヘルプ

フォルダバックアップとミラーリングバックアップで重複（同じフォルダを指定）登録は可能です。その場合に、どちらの処理を先に処理するかを上記の設定で登録します。ミラーリングバックアップで処理された場合はフォルダバックアップの処理は行われませんし、フォルダバックアップで処理された場合は、ミラーリングバックアップは行われません。

サブフォルダの多重登録

“D:\¥AAA¥BBB¥CCC¥DDD” というフォルダ構成で下記内容のフォルダバックアップ（ミラーリングも同じ）の指定を行った場合、この内容での登録が行えますが、実際に処理を行う場合はフォルダ階層の浅い順から処理が行われますので、1. の登録以外は実施されません。

1. “D:\¥AAA”
 2. “D:\¥AAA¥BBB”
 3. “D:\¥AAA¥BBB¥CCC”
- } 登録順は関係有りません。内部でフォルダ階層順にソートします。

自動バックアップファイルおよびフォルダの保管先フォルダ

自動バックアップの設定

バックアップ世代数: 10世代

バックアップ基準時間: 分間隔 インターバルタイマー: 10分間

バックアップ先フォルダの設定: G:\Titan-Backup 選択(B)

処理優先順位: ミラーリング優先(W) フォルダバックアップ優先(E)

更新 キャンセル ヘルプ

バックアップデータの保管先フォルダは、Titanプログラムが管理するフォルダ上にデフォルトフォルダが作成されますが、任意のフォルダを指定する事も可能です。その場合の指定方法は、上記の設定画面内の「バックアップ先フォルダの設定」で設定して下さい。

フォルダ監視との重複登録

フォルダ監視に指定したフォルダを、バックアップまたはミラーリングフォルダに指定する事は不可です。また、その逆も同じです。